

『ふれあい・学びあいを活かした学習指導の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 体験活動を取り入れた学習を積極的に進め、心豊かな児童を育てる。
- ・ 地域の人材や教材を活用したり、外部の専門家による授業を行ったりして、様々な立場の方とふれあうことで、幅の広い学習活動を行うとともに、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 児童が楽しい学校生活を送ることができるよう、児童の実態を客観的につかみ、それに応じた学級指導を行うための職員の力量向上を図る。

2 内容

(1) 体験活動の充実

地域の方々の協力を得、味噌造り体験（3年生）や七宝焼き作り（4年生）、田植え・稲刈り（5・6年生）、町探険（1～3年生）、昔遊びの会（1年生）等、地域教材を活用した多様な体験活動を行いました。



【3年生 味噌造り体験】

(2) 外部機関の活用

「ハッピートーク」（5年生）や福祉実践教室（4～6年生）等、ゲストティーチャーによる専門家ならではの授業を行いました。防災教室（全学年）は、学校公開日に行うことで、保護者にも学習内容を共有してもらいました。

(3) 指導力の向上

「いごこちのよいクラス」「やる気のあるクラス」にしていくために、2回のhyper Q-Uアンケートを実施しました。1回目・2回目とも、外部講師を招聘し、個々やクラスの実態把握の仕方や結果をもとに、子どもたちが楽しい学校生活を送れるようにするためには、どのような指導をしていけば良いかの現職教育を行いました。

3 評価

- ・ 伝統的な産業の体験や農業体験を通して、児童の郷土に対する関心を高めることができました。また、関わっていただいた方々の好意にふれることができたことも、児童にとって心あたたまる体験となりました。
- ・ 外部講師による専門的な授業は、児童の知的好奇心を高め、視野を広げることにつながりました。福祉・防災など、今後社会生活を営む上で大切にしていかなければならない分野において、知識のみならず、体験を通して深く学ぶことができました。
- ・ 「ハッピートーク」では、温かい人間関係を築こうとする意欲が高まりました。また、授業における言語活動の充実は、コミュニケーション能力の向上につながり、やさしさのある学級づくりにも役立っていると考えます。
- ・ hyper Q-Uを実施し、分析や活用法の指導を受けることで、児童一人一人にどう言葉がけやアドバイスをしていたらよいのか、担任が自信を持って指導に当たることができるようになりました。

4 課題

学習した内容を、より深化させるために、グループ・クラスでの話し合い活動がより活発に行えるような手立てを工夫していきたいと思います。

『豊かな心とたくましい体を育む教育活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ なかま班を中心に日常の活動や学校行事に取り組む中で、異年齢交流の充実を図り、その中で思いやりと感謝の心を育むとともに、児童の自尊感情を高める。
- ・ 異年齢交流活動の一環として行っている遊びのなかに、施設や用具を活用した動きを取り入れることで、体力向上を目指すとともに、運動の生活化を図る。
- ・ 水泳指導の基本について、教師と児童と一緒に学ぶ機会を設け、泳力向上と水難事故防止を目指す。

2 内容

(1) 心の交流の推進

異年齢で構成した「なかま」を核として、週2日の遊びを中心とした日常的な活動を継続し、よりよい人間関係の育成を目指しました。また、なかま活動の一環として行うなかま遠足や運動会・「秋竹カーニバル」「ウィンターフェスティバル」などをさらに充実させました。



【秋竹カーニバル】

(2) 運動の生活科

なかま活動で外遊びが定着し、2限放課や昼放課には、たくさんの児童が運動場に遊びに出ています。活動内容の拡充を図ることを目的に、補充した紅白の玉各50個は、運動会の他なかまの行事等にも活用されています。また、そのほかの遊びの用具も、児童が自由に使えるように設置しており、放課にも活用され、児童の健康増や運動習慣の醸成に役立っています。

(3) 泳力向上の取り組み

個人差が大きくなる中学年を対象として、水泳の特別講師を招聘して特別水泳授業を行いました。7月11日・12日の2日間、水慣れと、正しい泳ぎ方を中心に集中して指導して頂きました。

3 評価

- ・ なかま活動や児童会主催の集会活動では、リーダーを始めとする高学年を中心に協力して活動することができました。高学年は、下の学年の思いを大切にしながら活動し、その中でリーダーとしての責任感を高め、思いやりの心や自尊感情・自己有用感を育むことができました。また、低・中学年は高学年への感謝の気持ちを持ち、やがては自分たちがこの活動の中心となるのだという自覚を育てることができています。
- ・ 外遊びを通して運動の習慣を身につけることができるとともに、竹ぼっくりや竹馬・一輪車・フラフープ等の遊びの用具を使うことで、楽しく身体コントロールの能力を高めることができました。
- ・ 特別水泳授業により、水泳に対する苦手意識を取り除くと同時に、正しい泳法が身に付きました。また、その後の授業を通して、泳力を高めることもできました。

4 課題

本校の伝統であるなかま活動の意義の再検証を通して、全職員が班の担任である自覚を持ち、すべての児童が自己有用感を得られるために、それぞれの学年が主体的に参加できるよう指導を進めていく必要があります。

『ふれあいを大切にした体験活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 自然の恵みに感謝する気持ちを育み、命あるものの大切さを知らせるとともに規律ある集団生活を通して、責任を果たし協力する心を育む。
- ・ 一人一人が自らの役割を自覚し、積極的にその責任を果たす中で、協働することの喜びを味わわせる。
- ・ 自分の思いを表現することの心地よさを味わわせ、よりよい自己表現をしたいという意欲を高めるとともに、表現力の向上を目指す。

2 内容

(1) 心の交流の推進

野外学習（4・5年生）では、春日井の自然の中での生活を通して自然に親しみ、自然の素晴らしさや厳しさを体験することで、なかまとの心の交流を図りました。また、キャンプカウンセラーに、登山や夕食づくり・キャンプファイヤーへの支援を依頼し、子どもたちへのサポートを充実させました。

小中交流の芸術鑑賞会では、プロによる生の演奏を聴き、中学生との合唱交流を行いました。

卒業式に向け、合唱指導の外部講師を招聘し、6年生だけでなく4・5年生も本格的な指導を受けました。



【4・5年生 野外学習】

(2) 自然とふれあう活動の推進

花壇等の環境整備を行い、学年の発達段階に応じて、1年生は朝顔、2年生は野菜、4年生はヘチマ、6年生はジャガイモの栽培を行いました。また、PTA環境整備委員会の方が植えられた花壇の水やりに、委員会活動として取り組みました。

3 評価

- ・ 野外学習に2名のキャンプカウンセラーを配置しました。その結果、指導の目が行き届くので、登山や夕食づくりにグループで伸び伸びと取り組ませることができ、安全に充実した活動を行うことができました。また、キャンプファイヤーでは、進行役やファイヤーキーパー等を務めてもらうことで、安全かつ子どもたちの心に残る行事にすることができました。
- ・ 小中交流会を通して、プロによる生の演奏を聴くことは、感受性豊かな小学生にとって、音楽を愛でる心を育むための貴重な機会となりました。宝小学校児童や北中学校生徒と一緒に合唱をすることを通して、中学校進学に対して前向きな気持ちをもつことができました。声楽家の合唱指導は、歌う技術の取得だけではなく、歌う喜び味わったり歌うことへの自信をつける機会となりました。
- ・ 栽培活動を通して自然を慈しむ気持ちを高め、自然の恵みや生命の不思議を体験することができました。また、育てた野菜を収穫する喜びを味わうこともできました。

4 課題

植物栽培に関しての職員の力量を高め、花壇を有効に活用するために、栽培法や管理機の使用法等の研修を行う必要があります。また、ジャガイモなど年度をまたいだ作物の栽培をスムーズに行うために、学校の栽培暦を作成する必要があります。